

伝統と革新のマダイ釣り 鴨居のタイラバ好調!

●三浦半島鴨居大室港発↓鴨居沖

フッキングライター/伊井泰洋 Yasuhiro Ii

昭和の時代から続くご当地釣法に鴨居式シャクリ釣りがある。30号の錆込みテンビンと2号の豆テナヤを使い、生きエビをエサに使う釣りだ。かつては三浦半島鴨居地区を中心に7軒ほどの乗合が出ていたが、出船する船は徐々に減っていき2軒を残すのみ。その2軒も現在はエビエサよりもタイラバで釣るお客さんのほうが多く、鴨居式のシャクリ釣りは過去のものになり

つつある。その鴨居式のシャクリ釣りを長い間支えてきたのが鴨居大室港・房丸の大船長、高橋房男さんだが、昨年末に高齢のため現役引退となった。後を継いだのは、アジ船とスミイカ船を担当していた息子の高橋正船長。よって現在の房丸は大潮回りはマダイ乗合、小潮回りは午前午後の半日アジ乗合での出船となっている。



▲東京湾のマダイはこれから春の好期を迎える

10時のコーヒード一息

取材へと伺ったのは、水温が徐々に上がり始めた3月10日。マダイ船が正船長に変わってからは、私は初めての訪宿だった。船は大型船の第八房丸になる。その隣に係留してある昔からタイ釣りや乗り慣れた古き房丸はじきに廃船予定だそう。シートがかけられた操舵室を眺めるとかつての釣りを思い出し、寂しさを感じざるを得なかった。

さて、房丸では希望者にエビエサ(生きエビは時期限定で、現在は冷凍エビを用意)が配られるが、この日は全員がタイラバタックルでの釣りとなった。7時半に船が解かれ、船はゆっくりと沖へ向かう。この日は11時半に干潮になるので、前半は下げ潮での釣りになる。



▲これまで大船長が使用してきた船もまもなく廃船

知得! Tips and Tricks

ブラックネクタイは大人の魅力?

かつての取材時に房丸の常連さんから教えてもらったのが黒のネクタイが効果的ということ。市販品のタイラバセットにはほとんど使われていない色で、単体で黒のネクタイを買ってきて使っている。その効果はまずまずで、東京湾のタイラバでそこそこの枚数を釣り上げることができ、この日も2回のアタリがあったのは黒ネクタイだった。一見地味に見える黒や茶色などのダークカラーは、海中ではシルエットをクッキリと際立たせ、むしろ高いアピール力があるらしい。

▶人間の見た目と魚の感じ方は違うようだ



▲タイラバは100グラムがおすすめ

ので、底から15〜20メートルまで探ったほうが効果的なこともある。最初にアタリがあったのは右舷トモ2番で、竿先をコンコンとたたきながら上がってきたのはキロ半のきれいなマダイだった。いやあ、いい型ですねと写真を撮らせてもらおうと、昨日

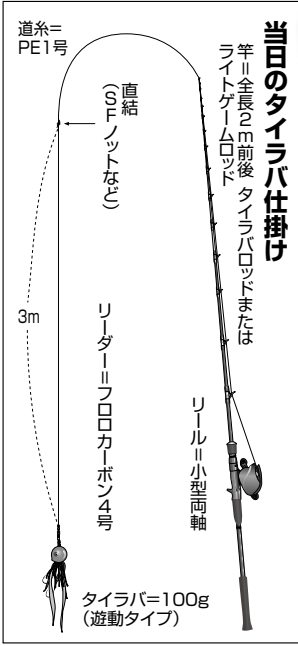
から続けて乗船している常連さんが「昨日はあれが平均サイズだった」と教えてくれる。船は下げ潮に乗せて大きく流す。鴨居沖から流し始め久里浜沖まで流すと潮回りしてまた鴨居沖に戻るパターンだ。一見、同じ場所を流しているように見えるが、「船長は流すたびに少しずつ筋を変えて、常に新しい場所を探るようにしているの」とはおかみさんの解説だ。

Tackle Guide

タイラバロッドは数多く市販されているが、実は筆者は専用ロッドを使っていない。タイラバを始めるときに試しにライトゲームロッドを使ったら使がよくてその後も使い続けている。ライトアジに使っていた6:4調子のロッドで、30号オモリを下げてると胴から曲がるくらい軟らかいグラスロッドだ。多くのタイラバロッドを使い込んでいくわけでは無いので竿の調子の違いによる使い分けは書けないが、竿先の反発力が高い(高弾性の)竿は、せっかくアタリが出ても食い込まないことがあるのはほかの釣りと同じだと思う。避けたほうがいいだろう。



▲久里浜〜観音崎周辺を流していく



▼2〜3キロ級の良型は頻りに上がっている



そのおかげか、流し変えのたびにだれかしらの竿が曲がる状況で、徐々にマダイの数のはびていった。良型が食ったのはそろそろ潮が止まるかなと思ったところだ。左舷の大ドモで上がったのは色鮮やかで、堂々の風格ある2キロ半のマダイだった。房丸では10時にコーヒード一息、12時に味噌汁が振る舞われる。当日は北風が冷たく手がかじかむ陽気、暖かい飲み物ももらいホッとひと息つく。

午後の時合で連続ヒット

私はこれまでアタリなし。釣れている人の仕掛けを見てみるとオレンジのヘッドがいいようだ。タイラバヘッドをゴールドからオレンジに交換

し、後半の上げ潮に期待する。私にアタリがきたのは上げ潮が動き始めた12時過ぎ。風が止んで暖かい日差しで眠気に誘われていたころ、コソコソとアタリがやってきた。そのまま巻き続けると引きは続く。しっかりハリ掛かりしたようだ。浮いてきたのは800グラムのマダイ、目の下1尺と呼ばれ、食べて一番おいしいサイズだ。時合がきたのかアタリは続く。今度はちょっと引きがいかにと思った瞬間、バレてしまった。あれ? 外れちゃったか、掛かり所が悪かったんだと仕掛けを上げてみると、なんとタイラバヘッドだけが残り、ハリとネクタイがなくなっている。一体どうしたことかと調べてみると、プラスチックの留め具が割れていた。昨年か使っていたもので、プラスチックが脆くなっていたのかもしれない。プラ製品は新しいものを使わないといけないと反省。

●船宿information

三浦半島鴨居大室港

房丸

☎046-841-9206 (詳細は巻末の情報欄参照)

高橋正船長

▶料金=マダイ乗合一人9500円(エサ、水付き)

▶備考=出船7時半。貸し道具、仕掛け販売あり。女性、中学生以下割引。駐車料金100円